令和8年度　第3回「知事と語る　やまなしづくり」結果概要

対話テーマ：若者の挑戦を支える学び

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。
今回は、「若者の挑戦を支える学び」をテーマに、知事との対話に応募していただいた皆様と意見交換を行いました。

【日時場所】　令和8年10月7日（水）午後2時15分から 県庁防災新館4階401・402会議室
【対話相手】　9名

（主な意見等）

〇将来的な起業を目指しているが、働きながら学べるか不安を感じている。就職後も働きながら起業について学べる環境がほしい。また、「何から始めればよいのか」を実践的に学べる機会が必要。
〇個別の講座に加えて、それぞれの事業課題に応じて継続的に相談できるオーダーメイド型の伴走型支援プログラムがあったら良い。
〇若者を支援する伴走者の存在は重要だと考えている。伴走者自身が学び、成長できる仕組みも必要。
〇学生時代に考えていた仕事のイメージとのギャップのため、就職後、辞めてしまう方が結構いると思う。学生時代から実際の仕事の本質的な内容や働き方を具体的に知ることができる機会があると良い。
〇若者向けの支援制度や学びの場など、有益な情報があっても十分に届いていない。確実に情報を受け取れる仕組みや、アイデアを発表できる場が必要。
〇グローバルな学びや国際交流に関心を持つ若者同士がつながる機会が少ない。海外や国際的な活動を身近に感じられるよう、若者の興味を引き出す機会づくりが必要。
〇探究活動は、地域課題の解決やビジネス実践につなげることが重要だと考えている。探究や起業に関心のある一部の生徒だけでなく、幅広い高校生が挑戦に参加できる仕組みが必要。
〇グリーン水素を活用したものづくりに取り組んでいるが、同じ分野に挑戦する仲間が少なく、モチベーション維持が課題だと考えている。学校教育の中で、水素技術や脱炭素に関する学習機会を増やしてほしい。

（知事（県）の主な発言）

〇対話を通じて、県が用意している支援制度や相談窓口がわかりにくかったり、十分活用されていなかったりといった実態があることがわかった。情報発信やアクセスの改善を図っていく。
〇起業や挑戦を目指す若者に対し、講座だけでなく実践的な伴走支援やコミュニティづくりを検討していく。
〇AIの活用やプッシュ型の情報発信など、必要な学びや支援情報が若者に届く仕組みを検討していく。





